

分別収集への取り組みについて

中川原環境部 加藤 博徳

4月1日より家電リサイクル法が実施され、冷蔵庫・洗濯機・テレビ・エアコンの処理費用は、個人負担となりました。また、町内では、ゴミ袋が無色透明か半透明のものに指定されました。

中川原地区では、今年の2月に新たに環境部を設置し、排出ゴミの分別回収に取り組みことになりました。4月に全戸を対象に排出ゴミのアンケート調査を、5、6月で全戸の方を対象に公民館で分別排出の勉強会を実施しました。5月にはリサイクルセンターを設置し、地区の方々の多大なご協力をいただき、進めてきました。

6月には、町ゴミ減量のモデル地区に指定され、特に家



▲整然と分別された缶類

庭から排出される生ゴミを生物処理バケツとボカシ(微生物発酵促進剤)を使用して堆肥化することにより、自己処理の促進で排出量の削減に取り組んでいます。

また、故紙・ダンボール類・ビン類・缶類・ペットボトル・発泡トレイなど22品目に分けて6月より分別収集を始め、リサイクルセンターで月2回実施しています。毎回番を決め交代で担当していただいています。故紙は紙ひもでしばって出す。ビンは洗って、貼っている紙は剥がして出すなど「ここまでしないとイケない」とスタート時点の戸惑いもありましたが、徐々に慣れるにいたがつて定着しつつあります。回収物の再資源化も順調に進んでいます。

現在排出されている中で、まだまだ再利用できる物が9割以上あります。しかし今は、そのほとんどの排出物が、伊予市の焼却場で焼却処分され、焼却後の焼却灰も、毎年増加の一途をたどっています。この灰も最終的にはどこかへ処



分しなければなりません。焼却灰を削減するためには、焼却物を削減することが必要です。

焼却物の中で、もっともやっかいな物は、家庭から出される生ゴミ類です。焼却しても焼却しにくいし、焼却後の灰が多量に残ります。この生ゴミが排出物全体の7割を占めています。生ゴミも上手に付き合うと大切な資源になります。

分別排出することにより、焼却物は、全体の1/50以下に減らすことができます。混ぜればゴミ、分ければ資源になります。限りある資源をリサイクル(再利用)することにより、地球にやさしい生活環境にすることができ、分別回収を始めて4か月、不慣れな点、連絡不足も多々ありますが、環境を良くするためにこれからも分別収集を積極的に推進して行きます。皆さんのご協力よろしくお願ひします。

子どもと一緒に

黒田保育所 藤川千鶴

『子どもが大好き』という思いから保育士になって5年。初め「先生」と呼ばれるたびに嬉しいような恥ずかしいような気持ちになったことを覚えていきます。

今年度初めて、5歳児の担任となりました。毎日が新しい発見。子どものおもしろさを実感したり、時には頭を悩ませたりしながら、楽しく過ごしています。

ある日、こんなことがありました。

A君が使おうと置いていた玩具をB君が使ったことでトラブルになり、どちらも強い自己主張を始めたのです。すぐ、その場で保育士が仲裁に入ろうと思った時、そばにいたC君が二人の間に入って調整役になりました。

大人が介入したり、解決を急いだりせず、子どもたち同士で話し合い、お互いの素直な気持ちを伝え、相手の心に気づく機会になれば、と見守ることにしました。

納得するまでには時間がかかりましたが、それぞれの思

いを十分に出し、友だちと違う考え、勘違いしていたことなどを理解したうえで、お互いを受けとめることができ、良い経験になったと思います。

今まで、子どもたちのことを信頼しているつもりでも、先走り、つい口を出し過ぎていたのではないかと反省しました。

子どもの無限大の力を信じ、子どもとともにいろいろなことを吸収し、たくさん思い出を宝物にしていきたいと思ひます。

